

JISS所報

2011年6月30日発行・・・所報No.351

目次

108回、109回、110回スウェーデン研究連続講座

108回

スウェーデンの政治・政治家と日本の違い

瓦林聖児

109回

「スウェーデンの原子力政策～福島第1の影響」と

映画「10,000年後の安全」上映

・「講演」スウェーデンの原子力政策の展望

ステファン・ノレーン

・「講演」同上

アンダース・カルソーン

・「映画上映」100000年後の安全

・「講演」福島事故のよびかけるもの～スウェーデン～の視点(割愛)

山崎俊雄

・「特別寄稿」スウェーデンと福島原発事故

須永昌博

110回

北欧映画の楽しみ方

渡辺芳子

シリーズ

スウェーデン留学体験者アンケートから(3)

JISS所報原稿募集

スウェーデン社会研究所 所報
 No.351 2011年6月30日発行

発行所:社団法人スウェーデン社会研究所

〒105-0013 東京都港区浜松町1-8-1

榊科学新聞社内5階

連絡事務所

〒124-0024 東京都葛飾区新小岩2-19-7

Tel. 03-5661-6035 Fax. 03-3655-1596

e-mail: sweden@tkm.att.ne.jp

URL: <http://www.sweden-jiss.com/index.html>

発行人・編集責任者: 野崎俊一

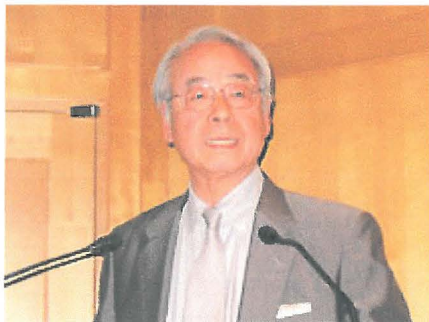
Publisher&Editor in Chief: Shunichi Nozaki

編集者: 久保田健司

Editor: Takeshi Kubota

108回 スウェーデンの政治・政治家と日本の違い

スウェーデン社会研究所理事長 瓦林聖児



瓦林聖児さん

私は1971年に三井物産の最初のストックホルム駐在員として転勤した。たった2人の事務所でその忙しさは半端ではない、でも商社マンの海外事務所はこんなものだろう。その後5年間駐在し、その間、駐在員事務所を現地法人とし帰国したが、4年後に再びストックホルム駐在と北欧5カ国の責任者となった。言い訳がましいが、スウェーデン語を習う必要は感じながらも結局あまりの忙しさのために全く出来ないままであった。スウェーデンに在住し仕事をしてきたにもかかわらず、政治・社会制度などについては全く理解していなかった。やはり現地語が出来ないことは致命傷である。

さて、このような議題でお話しようと考えた動機は、現在の日本の政治や政治家を目の当たりにして、スウェーデンとのあまりの大きな違いを感じたからである。以下順次相違点につき忌憚のない意見を述べる。

スウェーデン政治の特徴

その1. 政治面

国民の国及び政治家に対する信頼度の高さ(ある調査によると90—95%)

国民の政治に関する信頼度の高さ(90%)

政治を含め全てのことに対する透明度の高さ(具体的説明)

与野党協議の重要性の認識・実績

地方分権

持続可能な政策の追求(年金改革、税制改革、財政改革につき具体的説明)

その2. 政治家

庶民感覚が必要、普通の人、威張らない

政治家になる動機はそれぞれ

議員の身分と利権は無縁(金銭的目的はありえない)

議員が一生の仕事であってはならない

平均的に若い。国会議員の平均年齢は47歳。昨年18歳の国会議員誕生

(因みに参政権・被参政権とも18歳)

国費の私的使用に対しては世論が大変厳しい

その3. 政策・制度面

高税金・高福祉(育児、教育、医療、介護など原則無料)

女性の職業参加支援制度の完備

子育て支援(育児休暇制度、休暇後職場復帰への保障)

出生率上昇対策の完備
失業保険制度の完備
行政監視制度(オンブスマン制度)
個人IDナンバー制の早くからの採用

国体・政治状況・現政権(フレデリック・ラインフェルト穏健等主体の4党連立)の説明

1920年代より今日に至る社会福祉政策の基盤形成からその発展の歴史説明。1976年に初めて中央党が政権獲得。それ以降は税制、財政、年金、社会保障、原発、労働組合対策などが争点となり自由党、中央党、社会民主津、穏健党など政権交代を繰り返している。然し、政治の透明性と福祉に関する基本理念は常に与野党協議で解決策を見出し、福祉政策と経済発展のためのインセンティブは重要視されてきている。

日本との違いで強調したいのは政治家の歳入比較

国会議員の年収は、スウェーデン—約700-800万円(所得税約53%込み)。アメリカ—約1,700万円、英国—約970万円。これに対し、日本の国会議員の歳費は約4,200万円(議長手当、大臣手当、総理大臣手当等はさらに加算)。国会議員が1日当たり国費をいくら使っているかを認識して政治家として不毛の行動に時間を使うべきではない。

スウェーデンは1院制、選挙は比例代表のみ。個人名連呼の選挙は無い。代わりに政党が政策をきっちり作り選挙前に世に問う。中・高生も学校で議論をするため、選挙に関する関心が高い。結果、国政選挙の投票率は常に80-90%となる。尚、政党事務局には、議員数に応じ国より政党助成金が配分される。

1990年代に4大改革

- ・年金制度改革(1991—99年)にかけ基礎年金部分を取りやめ所得比例に改める
- ・その結果、働いて所得が増えた分は個人年金が増額となる。但し、貧困層の最低保障部分は残す
- ・1991年税制改革(年収298,600クローナまでは約30%の地方税のみ。それを超えると20%、さらに450,000クローナ以上は25%の国税がかかる。これで従来の天文学的累進課税をなくなった。また、法人税も57%を30%に下げた。この税収減の補填が気になる場所であるが、これが解決のため利子、配当、キャピタルゲインの損益通算、CO2温暖化ガスの排出に関する環境税の導入。何よりも勤労意欲の促進に伴った税収増である
- ・財政改革(1994—95年)3か年予算を組み、シーリング方式を導入。予算積み上げではなく、各省、局にシーリングを設定)。この結果、財政赤字GDPの約50%であったものが徐々に解消
- ・エーデル改革(1992年に実施された福祉改革)

老人介護の責任をランスタング(県)からコミュニオン(市・町)に移管したもの。より身近な介護が出来る反面、コミュニオンが負担に耐えられるか疑問

地方分権

前述の通り取得税が全て地方に入り、日本のような国からの交付金はなく、独立性が保たれている。地方も国も制度的にも人事的にも全く対等の立場である。国会議員と地方議員に両方当選した場合地方議員のほうを選ぶ人もいる

教育のあり方(内容省略)

最後に「日本は如何に変わるべきか=私見」

- ・国益に関する事項に関しては与野党でコンセンサスを得ることを状態とする
(国益とは外交、防衛、財政、税制、社会保障、教育制度など)
- ・国益事案を政局に結び付けようとする政治家を国民が厳しく監視する
- ・そのためにはメディアの報道が重要。メディアは国益を考えているかを国民が判断する
- ・政治・経済全ての透明度を高める
- ・早急に国民IDナンバー制を導入する
- ・教育の充実
幼児から自己判断力、応用力を身につけさせる
科学技術教育の重視、国際的な視野を持つ学生の養成、政治家の養成

以上

109回「講演」スウェーデンの原子力政策の展望

駐日スウェーデン大使 ステファン・ノレーン



ステファン・ノレーンさん

略歴 ウップサラ大学、ヨーテボリ大学政治学科卒。スウェーデン通産省、モザンビークスウェーデン大使館一等書大使館一等書記官、モスクワスウェーデン大使館公使、ポーランドスウェーデン大使、2006年から現職

- ・世界中で現在440基の原子炉がある。そのうちスウェーデンには10基あり、スウェーデン国内電力の45%を供給している。
- ・1979年のスリーマイル事故のあと、1980年にスウェーデンでは国民投票を行い、2010年までにすべての原子炉を廃棄することを決めた。その結果、1999年に一基、2005年にもう一基をストップした。
- ・しかしながら、すべての原子炉を廃棄するには経済的な負荷が大きく、現実的でないことなどの理由から、2010年には「残りの10基については、寿命がきたら新しい原子炉に更改する」旨の国会決議がなされ、10基は温存することとなった。しかしながら、1980年の原子炉全廃の国民投票の決定は生き続けて、いずれは全廃する方向には変わりはない。
- ・スウェーデンにおける再生可能エネルギーの利用率は、30%~40%(45%)で、これを2020年までに、50%にすることを目標としている。エネルギー源は風力、バイオマス、水力が主で、特にバイオマスへの期待が大きい。5~10年などの短期的な解決には水力が有望である。いずれにしても、再生可能エネルギーのシェアを増やすことが大切で、政府の明確な意思が必要である。ちなみに、EU諸国ではスウェーデンが再生可能エネルギーの利用率においては最も進んでいる。
- ・スウェーデンにおける原子炉の安全性については、INESレポートと国連事務総長発表の国連安全基準が基となっている。安全性の確保と電力のコストが兼ね合いとなるが、原子力発電コストが上昇すれば、再生エネルギーの利用を促進する要因となるであろう。
- ・原子力の賛否に対しては、スウェーデンでは、1970年代、80年代の方が世論が分かれていたが、現在は政治家も含めて反対の意見のほうが少数になっている。
- ・福島事故は原子力に対する見方に今後とも議論を巻き起こす要因になるであろう。
- ・スウェーデンは今回の東日本巨大地震の被災に対する支援はスウェーデン単独ではなく、すべてEUを通じて行っている。

109回「講演」スウェーデンの原子力政策の展望

スウェーデン大使館科学技術参事官 アンダース・カールソン



アンダース・カールソンさん

略歴 スウェーデン王立工科大学 量子工学博士、同大学准教師、NTT科学基礎研究所研究員、スウェーデン王立工科大学教授、EUデカルト賞受賞、2007年から現職

(英語講演。通訳なしのため要約。スライドを参照)

3.11の直後から私は毎日、Sweden Radiation Authority と連携をとって、逐一福島第一の事故をスウェーデンに報告するとともに、そのフィードバックを受け取っていた。この講演は福島事故前と事故後のスウェーデンの原子力政策についての報告である。

1 スウェーデンのエネルギー政策

- ・2008年現在、スウェーデンのエネルギー全体の供給は、再生可能エネルギー35%、化石燃料33%、原子力32%であり、エネルギー変換ロスが27%ある。この全エネルギーの媒体は、熱源40%、電力35%、燃料25%となり、最終利用形態は、産業用38%、住宅及びサービス業36%、運輸26%である。
- ・スウェーデンにおける一次エネルギーの変遷をみると、1970年では、化石燃料が80%、バイオが10%、水力が10%であったのが、2008年になると、化石燃料が32%、原子力が同じく32%、バイオが28%、水力が17%、風力が1%となり、原子力が大きな比率を占めるようになった。
- ・電力の発電量をエネルギー源別にみると、2008年では、再生可能エネルギーが54%、原子力42%、化石燃料が4%で、バイオと水力など再生可能エネルギーが半分以上を占める。世界全体では、化石燃料が67%、原子力が19%、再生可能エネルギーが14%なので、スウェーデンにおける再生可能エネルギーが際立っている。また、原子力依存度は人口比で見るとスウェーデンが世界1。

2 福島事故以前のスウェーデンの原子力政策

- ・1938年にスウェーデンのChristmas Kungälv とオーストリアのLise Meitner, 及びOtto Frischがウランの核分裂について論文を発表、原子力発電への道を開いた。1954年には、王立工科大学(KTH)においてスウェーデン最初の研究用原子炉が臨界に達し、1963年には、地域暖房用として、Agestalにある原子炉の運転が始まった。そして、スウェーデン最初の商業用原子炉の運転は1971年のOskarshamn発電所で行われた。
- ・スウェーデンには現在10基の原子炉が運転中で、Forsmark 発電所に3基(スウェーデンAseaAtom製)、Oskarshamn発電所に3基(スウェーデンAseaAtom製)、Ringhals発電所にAseaAtom製が1基、Westinghouse 製が3

基ある。

・1979年にスリーマイルの事故が起きるとスウェーデンでは、原子力開発への国民の危惧が高まり、開発を推進すべきかストップするかを決める国民投票が1980年に行われた。投票には3つのケースが提示された。その結果(1)10年以内に原子炉を破棄=38.7%、(2)原子炉は国有とする条件で原発を容認=39.1%、(3)将来原発は破棄するが、現存及び建設中の原発は利用する=18.9%であった。原発に反対する意見は全体の40%弱で、条件つきながらも賛成が60%を超えたことはその後のスウェーデンの原子力計画に大きな影響を及ぼすこととなる。当初スウェーデン政府は反対派の意見を尊重し、12基のうち2基の廃止を実行し、2010年までには全部の原子炉はストップする決定を下した。しかしながら、2010年6月の議会では「新規原子炉の建設は認めないが、現存の10基のみ寿命が来たら新規のものに取替える」ことが認められ、スウェーデンエネルギー政策は大きく転換した。スウェーデン環境省長官は「スウェーデンのエネルギーをめぐる歴史の中で原子力はいつもカッコ付きである」とコメントしている。

福島事故後のスウェーデン世論調査

・3月11日の福島第1の事故後、3月22日にダーゲンスニヒテル紙が「スウェーデンで今後も原子力を電力として利用するかどうか」の世論調査を実施し2008年の調査結果と比較した(数字は2008年→2011年)。原子力廃止 15%→36%、現状維持 33%→36%、原子力拡張 47%→21%。このように拡大を求める声はさすがに半減したが、原子力を廃止する意見より、現状維持及び拡大を求める意見が過半数を超える結果となった。スウェーデンにおいては福島第1の事故があっても、原子力を維持する体制であり、事故は大きな影響を及ぼしていないと考えられる。

スウェーデンの使用済み核燃料の処分

・2009年6月にSKB(スウェーデン核燃料・核廃棄物管理公社)はスウェーデンにおける使用済み核燃料廃棄物の処分場をForsmarkに建設することに決めた。Osthammarとともに2箇所が候補地として検討されたが、長期貯蔵にはForsmarkが優れているとの結論である。どちらにするかは、土地の自治体、住民の意見調査が行われたが、どちらの土地でも、住民を含め処分場建設に賛成する意見が圧倒的多数を占めた。
・SKBはスウェーデンで発生する全ての核廃棄物を管理する機関で、この最終処分場では原子力発電から出る使用済み核燃料を岩盤深く地下470mに、10万年に渡って貯蔵するものである。最終処分場の前処理として中間貯蔵するClubという施設が同時に建設されることになっている。

3 福島事故では何が起きたのか～外部からの観察

・3月11日の地震と津波により被害を受けたのは福島原子力発電所だけではなく、東北沿岸の火力発電所でも津波により破壊されていた。
・福島第1では、地震とあわせて予想された14mをはるかに超える46mに達する津波が襲い、(1)まず、建屋外にある電源施設が破壊され、(2)津波により非常用ディーゼル発電装置が破壊され、(3)全ての冷却用ポンプが作動しなくなった。
・福島第1から放出された放射性物質の濃度を、INES(International Nuclear and Radioactive Event Scale)で比較すると、チェルノビルの場合には、5.2 million TBqであったのに対して、福島第1では0.37~0.63 million TBqで福島の値はかなり低いものであった。ただし、どちらもレベル7以上であることには違いはない。
・スウェーデンでもレベル2やレベル3の事故が起こったことがある。
・チェルノビルで事故が起きた時にスウェーデンのフォーシュマルク発電所の外で、放射能異常が検出されたため、最初はこの発電所での事故と思われたが、チェルノビルで爆発事故が発生したことを世界に向けて最初に発信したのがスウェーデンである。しかも、チェルノビル事故で最も深刻な被害を受けたのはスウェーデンである。事故現場から放出されたセシウム137の全量の5%がスウェーデン国内に降下したものと推定されている。
場所によっては年間1mSVの被爆量があり、1mSV以下の汚染食料だけを食べるようにとの指示がなされた(通常許される値は300 Bq/kg)。トナカイなどの野生動物の肉や魚の汚染値は1500Bq/kgにまで上昇した。この値は50Kgの摂取量に相当する。
・スウェーデン政府はその後も引き続き放射能物質の汚染濃度を地域別に測定し、監視を続けている。ストックホルムを始め、汚染が激しかったスウェーデン北部の地方でも年々測定値は下がってきているが、それでも北部ではスウェーデン全体の平均値を上回る値を示している。しかしながら、癌の発生率に対しては特に顕著な兆候は見られていない。
・福島事故の後の東京都の放射線量レベルをスウェーデンのレベルと比べて見ると、爆発直後には東京都の値はスウェーデンより遥かに高く、3月16日までこの傾向が続いていた。しかし、その後はスウェーデンより遥かに低い値に移行した。その後3月21日から3月26日にかけて再度東京の方が高くなったが、26日以降からこれまで東京の値はスウェーデンの平均値を下回っている。

4 福島とスウェーデン、何が変わるか？

・もし、原発事故がスウェーデンで起きたとしたら、スウェーデンがとる危機管理は
(1)15 Km圏内を避難地域にする(2)避難地域の住民は沃素剤を飲む(3)警戒ラジオ放送を流す(4)避難所に避難する。事故の程度によって50Kmを避難地域にすることもあるが、どの圏外に避難するかは、細かく決められている。・5月9日にスウェーデン王立理工学アカデミーで福島原発事故についてのセミナーが開催された。その様子は英語なので次のサイトで見ることができる。

<http://www.iva.se/IVA-seminarier/The-nuclear-accident-in-Fukushima/>

・5月12日にスウェーデン放射能安全委員会は政府から福島事故のスウェーデンへの影響を調べるように指示を受けた。それに基づきスウェーデン国営電力会社Vattenfall、民間電力会社E-onはSweden Task Force(特別調査委員会)を作り、日本に調査団を派遣した。その工程表は(1)福島原発事故分析シナリオの作成(2)原発事故の総合的な解析(3)スウェーデンが取るべき対策よりなる。

・すでに明らかになっている問題点は(1)福島原発では4基が並列して建っている(2)緊急事態に対して事前の準備が完全ではない(3)複合災害への対処の仕方④東電の住民に対する配慮(commitment)が不十分⑤信頼すべきデータがないなどが挙げられる。

・スウェーデンが福島事故から学ぶべき点として(1)複合災害に対する防御(2)原発の長期運転と新原子炉の建設のバランス(3)市民に対する情報提供と対話の重要性が挙げられるが、スウェーデン政府の原子力政策にどのような影響を及ぼすかは、今結論付けることはできない。暫く時間がかかるであろう。

Copyright (C) Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies All Rights Reserved

「講演」 スウェーデンの原子力政策の展望

監督・脚本:マイケル・マドセン/イエスパー・バークマン
出演:T・アイカス/C・R・ブロケンハイム/M・イエンセンら
配給・宣伝:アップリンク 上映時間75分。
デンマーク、フィンランド、スウェーデン、イタリア、英語版

誰にも保障できない10万年後の安全。放射性廃棄物の埋蔵をめぐる、
未来の地球の安全を問いかけるドキュメンタリー。

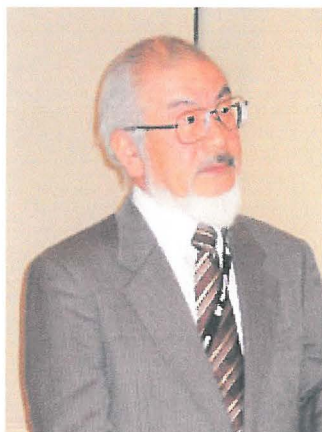
毎日、世界中のいたるところで原子力発電所から出される大量の高レベル放射性廃棄物が暫定的な集積所に蓄えられている。その集積所は自然災害、人災、および社会的変化の影響を受けやすいため、地層処分と言う方法が発案された。フィンランドのオルキルオトでは世界初の高レベル放射性廃棄物の永久地層処分場の建設が決定し、固い岩を削って作られる地下都市のようなその巨大システムは、10万年間保持されるように設計されるという。廃棄物が一定量に達すると施設は封鎖され、二度と開けられることはない。しかし、誰がそれを保障できるだろうか。10万年後、そこに暮らす人々に、危険性を確実に警告出来る方法はあるだろうか。彼らはそれを私たちの時代の遺跡や墓、宝物が隠されている場所だと思ふかもしれない。そもそも、未来の彼らは私たちの言語や記号を理解するのだろうか。

圧倒的な映像美

コンセプトチュアル・アーティストとしても活動する監督のマイケル・マドセン自らが、既に建設が進行中の施設に潜入し、このプロジェクトの実行を決定した専門家たちに、未来の子孫の安全性について問いかける。圧倒的な映像美はまるでSF映画のように、荒廃し人類が去った後の地球、機械だけが永遠に動き続ける地球の姿を映しているようだ。(PR用のパンフレットから転載・問い合わせはアップリンク=電話03-6825-5502)

特別寄稿 スウェーデンと福島原発事故

スウェーデン社会研究所所長 須永昌博



須永昌博さん

3月11日の地震・津波・原発事故の大災害に、すぐスウェーデンからも多くのテレビ取材陣が現地に飛び、自然のもつ凄まじい破壊力と何も残っていない荒廃した風景が連日スウェーデンで報道されました。そのような報道が一段落した4月23日から、今度は放射能汚染の恐れから避難地域に指定された住民の生活実態を報道する目的でスウェーデン国営TVが現地入りし、私も福島県南相馬市、飯舘村、川俣町で現地行政機関や住民との取材交渉、道案内および通訳として4日間手伝いました。その間彼らの取材する目線(背後にいるスウェーデン視聴者)と、インタビューに答える現地の住民、行政関係者の言葉からあらためてスウェーデンと日本の違いはつきりと認識しました。これは、その感想の一部分です。

1. 風評被害

今回の取材中に、行政担当者や避難所で暮らす住民から頻りに聞かされた言葉は「福島県から来たというだけで他県に避難した子供たちが差別される」「福島ナンバーをつけたトラックが静岡県のスーパーで入らないでくれと拒否されたり、貼紙を張られた」「放射能の安全証明書がなければ診察を受け付けられない病院がある」などなどの心無い仕打ちです。丁度、広島、長崎の被爆者及びその子孫がまともに結婚もできない、就職もできないという状況と同じです。いずれ、福島は広島・長崎の被爆者と同じ差別に悩むことになるのではないかと恐れます。

スウェーデン社会の根源は「人権意識」と「人間みな平等」をいう認識にあります。イラクからだけでも1万8千人の移民・難民を受け入れ、930万人の人口の1割が移民で占めるようになりました。GDPの約1%を貧困国援助に使い(日本は0.25%)、いまでは、移民の第2、第3世代が社会の中核に進出しています。今回のスウェーデンTVのレポーターはペルシャ人の子供で、ペルシャの事を色々と話してくれました。スウェーデンでは生後12ヶ月から殆どの幼児が就学前施設に入り、子供は親のものではなく社会のものとして扱われ、ジェンダー教育を受け、集団生活やゲームなどを通じて人権意識、平等意識を体得していきます。人の口に戸は立てられません。風評被害を抑えるには、つまるところ幼児からの教育が大事だと思います。

2. 地方自治

被災者から「中央からの指示が遅い、曖昧だ、情報がバラバラで何を根拠にしてよいかわからない」という声をたびたび聞きました。中央からの指示がなければ何も出来ない日本の地方自治の実態を実感すると共に、今後の復興のためには、スウェーデンのように地方のことは地方で決めるシステムができれば最も効率よく、地方住民のためになると感じました。「政府は、早く地元金に金だけわたして、あとは我々にまかせろ」とマイクにむかって発言した飯舘村の

畜産農家の言葉が印象に残ります。

地方自治の実現には財源の確保がかかせません。スウェーデン住民の所得税は国庫の歳入にならず、すべて地方財源になります。その財源をもとに県に相当するカウンティが医療を、市町村に相当するマニシパリティが教育を担当します。日本と違って、スウェーデンでは比例代表制なので、住民は政党に投票します。国会・地方同一選挙で、獲得票によって国会、地方議会の議席が決まり、かつ、同時に知事、市長も決まります。当然、中央と地方の間で、政策の捻れはなく一貫した政策が行政に移されます。大事なはこの選挙に住民が85%~90%と高い投票率で参加することです。日本ではこの4月の統一地方選でやっと60%近くにいきましたが、通常、県知事選挙では30%~40%です。スウェーデンのように高い投票率で選ばれた議員は概ね有権者の声を代表していると考えられます。ですから、議会で議論の末決められた法律が行政段階で実施されるときには、たとえ不満でも住民は納得しています。このことは今後のエネルギー政策、原子力政策にも大きく関係してきます。原発に賛成でも反対でも「議会で決まったことには従う」というルールにスウェーデン社会の民主主義の成熟が見られます。そのためには国政選挙でも地方選挙でも、まず私たちは投票所にでかけて票を投じ、投票率を高くすることが大事ではないでしょうか。

3. 意思決定

被災現場にいと、情報伝達と情報公開の遅れを痛感します。その背景には日本人独特の「完璧主義」と「コンセンサス作り」があるのではないかと感じます。一人のリーダーが「責任はおれがとるから、ともかくこれをやれ」とはなかなか日本人は言いません。みんなが同じ思いになるように、コンセンサス作りに多大な時間とエネルギーを費やすので、例えば、東電からの発表、官房長官の記者会見にいたるまでに時間がかかります。

今回スウェーデンTVは、小名浜に停泊中の海洋練習船「海王丸」取材しようとしていました。原発事故現場で放射能汚染の危険にさらされながら不眠不休で活動する作業員にひと時の休憩とまともな食事を提供して、とても効果を挙げていることを新聞で知ったからです。ところが、この船は二泊停泊しただけで、東京に戻りそのあとハワイに向けて出航してしまっただけがわかりました。「スウェーデンだったら、いま一番大事な現場作業員の休息にそれほど効果をあげ、しかも、国土交通省の管轄下にある船なら、大臣の一声でハワイ航海を半年延期するだろう」とは、スウェーデンTVチームの言葉です。なお、日本のマスコミは、作業員が喜んでる様子を報道しただけで、すぐハワイにでかけてしまったことは報道しません。

4. 今後の原子力政策

スウェーデン政府は福島第一のあとでも基本的な原子力政策は変更しないことを明言しています。すなわち昨年6月に「現在ある10基の原子炉は寿命がくれば更新するが、それ以上新規の建設は認めない」とする議会決議をそのまま踏襲することです。スウェーデンは原発大国で電力の約半分を原子力発電に依存し、残りの半分は水力と火力で、よく言われる自然エネルギーは殆ど電力源にはなっていません。福島第一の事故が起こる前までは、この10基の出力を12%~15%高めることが論点の一つでしたが、今は、安全性の点からこの計画を見直す動きがでてきます。

スウェーデン人は「人間のやることに絶対ということはありません」と考え、つねに最悪の事態を想定し、そこまでやるのかと思わせるほど、予防に力を注ぎます。日本人は「絶対安全」とか「絶対ありえないなど」と、絶対神話が好きですが、スウェーデン人はそこまで楽観的ではありません。いまでもストックホルム内に200箇所以上の核シェルターが残っていてデータセンター等に利用されていますが、冷戦時代にソ連から核攻撃を受けた場合を想定し、まじめに建設したものです。北朝鮮がスウェーデンの隣の国でしたら、早速ミサイル防空壕をつくるでしょう。

(2011年4月30日記す)

110回 北欧映画の楽しみ方

渡辺芳子



渡辺芳子さん



お話にあたって、自己紹介をさせていただくと、私はサンスポで映画&音楽を中心とした芸能記者を10年しております。88年に会社を辞めてからスウェーデンで短期の語学留学を繰り返すうちに、北欧のポップス、映画、ライフスタイルの紹介やコーディネートをして今に至っております。というわけで、学者でも映画評論家でもないの、データの構築や分析などは範疇ではありません。私が見た事、取材したことを基本に北欧映画の現状とその楽しみ方をお話させていただきます。まずは、現在公開中、まもなく公開される北欧映画とその関連作品の予告編をご紹介します。

- *「光のほうへ」(デンマーク映画、トーマス・ヴァンタヴェア監督、公開中)A
- *「未来を生きる君たちへ」(デンマーク映画、スサンネ・ピア監督、8/6公開)B
- *「シャンハイ」(米映画、ミカエル・ホフストロム監督、8/20日公開)C
- *「モールス」(米映画、マット・リーヴス監督、8月/公開)D
- *「デビルクエスト」(米映画ドミニク・セナ監督、7月30日公開)E

1 「ミレニアム」以降の北欧(スカンジナビア)映画と話題作など

日本ではあまりに猟奇的ということで、映画「ミレニアム」3部作はヒットしませんでした。ヨーロッパでは爆発的なヒットを記録し、Sthlmのロケ地を巡るガイド付き「ミレニアム・ツアー」が、国内外の観光客を集め、観光にも一役買うほど。これはデンマークが製作、キャスト、スタッフはスウェーデンという2カ国の共作による超大作ですが、過去にも大作は2カ国、あるいは3カ国で製作されてきたのは、1カ国のみでは観客動員が少ないこと。つまり制作費に限りがあり、大作ができない、ということで「ミレニアム」の成功で、今後もスウェーデン+デンマークを中心に共作が作られます。超大作ではなくてもこの2カ国の共同作業は頻繁に見られます。例えば、Aで主演の兄弟の兄を演じているのはスウェーデン人の俳優、Bの主演アンサンブルにもスウェーデンの俳優俳優、ミカエル・パーシェブラントが出演しています。

また最近ハリウッドでは北欧映画のリメイクの盛んです。Dは昨年公開されたスウェーデンのバンパイア映画「僕のエリ 200才」のリメイクで、英語で話している以外は原作を忠実になぞっています。過去にはノルウェーの「インソ

ムニア」が、アル・パチーノの主演でリメイクされたのを筆頭に、けっこうリメイクがあります。また、「ミレニアム」のハリウッド版が、007のダニエル・クレイグ主演で製作中で、年末に公開予定。デヴィッド・フィンチ監督(ファイトクラブ、ソーシャルネットワーク)作品のリメイクだけではなく、監督&俳優のハリウッド進出も盛んです。Cの監督は、「Ondskan/Evil」でアカデミー外国語賞にノミネートされたスウェーデン人監督です。ご覧になればその演出がいわゆるハリウッド監督とは違うのを感じられるはずです。さらにEには、Aで主演の1人、デンマークのNO1俳優、ウルリッヒ・トムセンが出演しています。いつも悪人役が多いのですが、なかなか渋い騎士を演じています。これ以外でも、007シリーズの仇役で有名になったデンマークのマッツ・ミキルセン、女優ではイーベン・ヤイレ、ヨーアン・ヴィーデルベリなど、とりわけ、ヨーロッパでロケした作品にはオーディションを受けて出演する北欧の役者が出ているので、楽しいです。

日本で公開するのは暗い映画が多いのですが、本国ではコメディもたくさん作られています。例えば、レバノンからの移民の監督、ヨセフ・ファーレスはデビュー作「ヤラヤラ」で家族を使ったファミリーコメディを大ヒット、その続編とも言える新作「Fasan/父ちゃん」もヒットしています。日本で公開されない理由は、笑いの質の違いでしょうか、本国では観客が高笑いで見ている作品がたくさん公開されています。スウェーデンではここ数年、バンパイア映画のムーヴメントがおきています。たわいもないバンパイア映画の中でも、Dのオリジナル版は高い評価をされました。低予算でできるバンパイア映画は新人監督のチャレンジ作でもあり、その中の1人の監督は「スウェーデンは冬は夜が長くて暗いからバンパイア映画の条件に適している」と言っています。

デンマークでは女性プロデューサー&監督の活躍していますが、その仕掛人は、ラース・フォン・トリアーと、彼のプロデューサーでもある、P・O・イェンセンで、彼らが金髪でモデルのように背が高い、才色兼備の美女を集めて人の目をひいたと言われています。Aのプロデューサーのシセ・グラム・ヨルゲンセンもその1人で、モデルのような美女ですが、まじめで勉強家で仕事熱心でこういう女性たちがデンマーク映画の成功を支えているのもまた事実です。日本でヒットした「幸せになるためのイタリア語講座」のロネ・シェルフイグ監督とAのピア監督の「One and Only」(日本未公開、イギリスでリメイク)が10~11年前に本国で、ハリウッド映画を超える大ヒットを記録し、デンマーク映画のゴールデンエイジの牽引力となりました。二人ともよく働く女性で、特にピア監督は毎年といつていいくらい作品を作っています。やはりお手本は、女王陛下?でしょうか。

この2国に比べるとお金持ちなのに遅れているノルウェーですが、ベント・ハーメル監督の「キッチンストーリー」などが日本でも好評でした。最近みたノルウェー作品で感動した3作品を簡単にご紹介したいと思います。

「Night of the wolf」08/kjell sundvall(チェチェン人がテレビ局をハイジャック、自ら人質となった女性キャスターと一匹狼のチェチェン人政治犯が事件解決に奔走する)Max Manus/09 Espen Sandberg & Joachim Roennig(第2次大戦下、ドイツ軍に占領されていたノルウェーのレジスタンスの、実在人物を描く。終戦後は決して英雄ではなく、地味な生涯を終えた人物たちを、若手俳優のアンサンブルが素晴らしく演じた。

I travel alone/Jeg eiser alene/11 Stian Kristiansen(若い頃一夜の過ちで産まれてしまった見知らぬ子供が、母の休暇中に父の元へ。ベルゲンで学生として暮らす“父”が父性に目覚める感動作。

アキ・カウリスマキの新作「Le Havre」難民の子供を助けようとする靴磨きの老人のお話 2011年1、9月公開予定。ラース・フォン・トリアーの新作「メランコリア」はカンヌで主演女優賞を受賞。日本でも公開予定。55才ラッセ・ハルストリムは、25年ぶりに本国で「The Hypnotist」(2013年公開予定)を撮る。シェル・スンドヴァルは、「Hunter 2」(Hunter/96)の続編で過去20年で最も人気のスリラー映画)を。ロルフ・ラスゴード、ペッテル・ストルマレ(コーエン兄弟のお気に入り)が共演。シェル・オーケ・アンデションの新作「Somewhere else」はHans Gunnarson Ondskan/Evilの小説が原作。ピア監督は、ベルイマン(1918-2007)の伝記をテレビ&映画の一部を監督する。脚本はベルイマンの義理の息子、ヘニング・マンケル(刑事ヴァランデルなど)、2012の春、映画プレミアム予定、テレビは同年クリスマス(SVT)

話題の俳優は、ハリウッドで活躍する、ステラン・スコツシュガード(Breaking wave/96, Insomnia/97, 旅立ちgoodwill hunting/00, Dogvill/03など)の息子たち。アレックス1976/「True Blood」, 「ダブルシフト〜パパの子育て奮闘記」 「Mellancholia」 「Battleship」(ピーター・バーグ監督2012/05), グスタフ1980(ストルマレが名付け親) 「パトリック1.5」 「Ondskan」, ビル1990/「シンプルサイモン」 「The Crown Jewels」 「simon & the oaks」(2011, Sep)が俳優として大活躍中。6人+1人(再婚)の子供達がいるが、後の4人はデビューしていない。来年の話題作で、トム・クルーズが主演する「rock of ages」に大抜擢されたMalin Akermanマリリン・アッカーマンも注目。

Sthlm生まれの33才。2才でカナダへ移住、17才からモデル。09「watchman」でブレイク。ザック・スナイダー監督が、ミラ・ジョヴォヴィッチやジェシカ・アルバに代わる素材として抜擢。「幸せになるための27のドレス」(07), 「あなたは私のムコになる」(サンドラ・ブロック主演)にも助演した。

2 全般

北欧では映画は文化で娯楽ではない。例えばデンマークでは文化庁の監督下に国立映画学校やDFI(フィルム・インステテュート)がある。またDFIには幼児のための映画教育機関FILMEXやアーカイブ&世界の作品の上映館もある。さらにトリアーたちが作った映画村の一角には13-18才の子供達のための映画教育機関「StationNext」がある。つま

り、ピラミッド型の映画人育成システムが整っている。またここでは、映画村の映画セットなどの使い回し、役立てている。デンマーク人のエコ哲学はこんなところにも！映画学校は2年に1回の募集で6回程の面接でやっと通る狭き門。その代わり実践教育で卒業すれば映画業界で仕事が可能。

スウェーデン映画は歴史が長い。かつてはクリスチャンサンドに映画村があったが、ガルボ、バーグマンがハリウッドへ渡ったのと一緒にテクニカルスタッフも同行し、一時人材が流出したが、ベルイマンの活躍で健在。その背景は高い文化、教育と歴史／演劇の質の高さ＝俳優の質のよさ＝テレビ＆舞台＆映画を自由に渡り歩く→ベルイマンの死後はもっと自由に製作活動。日本では黒沢明が没したようなもので、巨匠のプレッシャーがなくなったせいかな？

3 イエテボリ映画祭にみる、市民映画祭のありかたと町おこし効果

今年で34回目を迎える、市民映画祭。開催日は1/28-2/7まで。データ(2007年)チケット売り上げ:12万2000枚 / フェスティヴァルパス3SK=60SK, al=40sk 作品数:450作品 / 世界70カ国、14シアターで、700回のスクリーニング。スタッフ:8人常駐。11月から40人、期間中は300人。ほとんどがボランティア。ゲスト:800人でそのうち300人は外国人プログラマー:15人 売り上げ:1,500万ユーロ 150万ユーロ サポート:市、SFI, GP

魅力は?:世界中から作品。チョイスされた北欧作品、特別なフォーカス作品。セミナー、コンサート、クラブ、パーティーなど余興もたくさん。以上、オーサのコメント。

主観:夜も昼間もいつもほぼ、満員。市民が楽しみにしているし、この期間は一般劇場も込み合う。映画を見る季節、というのがすっかり定着。オープニングではボランティアスタッフが、<ようこそ、第〇回イエテボリ映画祭へ>、ゲストがある時はQ&Aの司会もする。質問もよく出る。映画祭が観客を育て、観客が映画祭を育てる。理想的な映画祭。市も協力。トラムが期間中、パスを買えば上映劇場がほぼカバーできる。授賞式会場として劇場、株取引場、図書館、博物館などあらゆるところがパーティー会場となる、懐の深さ!

最近ではクリスマスにイルミネーションをするなど、冬の最終セールが展開中など映画祭が起爆剤になっている。観客のほとんどが地元の人。日本の地方都市でもこのノウハウを生かし、町おこしと文化伝承に役立てて欲しいもの。

スウェーデン留学体験シリーズ アンケートから(3)

(2010年4月アンケート記入)

留学先学校名:ウメオ大学
 専攻:公衆衛生学
 課程・留学形態:修士課程・政府奨学金及び私費留学
 留学期間:2007年8月～2009年8月

留学の動機:なぜ他の欧州・北欧諸国ではなくスウェーデンを選びましたか
 専攻分野で、他国と比較し独特のアプローチをとっているため。

留学前の準備期間:留学を思い立ってから実際に現地へ出発するまで、どのくらいの準備期間が必要でしたか
 2年

スウェーデン語や英語の勉強方法 日本またはスウェーデンで、語学をどのように勉強しましたか
 留学前に1年間、週2時間、語学講座(スウェーデン社会研究所)にて、文法と読解を学習。留学後、1年間、週4時間、大学にて、留学生用スウェーデン語を履修。
 現地到着前に文法の知識を体系的に得られていたため、その後の学習も効率よく進められた。

情報収集方法:どのようにして情報を集めましたか
 出願先大学のホームページ。
 現地の学校への問い合わせ 学校へはどのような方法で連絡を取りましたか。またどのような質問をしましたか
 E-mailと電話。E-mailのやりとりではっきりしなかった点は電話にて解決した。

入学手続きの時期について:出願ではどのような書類(芸術系の場合は作品)をどこに提出しましたか
 履歴書、学部の卒業証明書・成績証明書、学部卒業論文、研究業績、研究計画書、推薦書。

書類(作品)を提出する際に苦労した点がありますか
 特になし
 出願から正式な入学許可書を受け取るまで、どのくらい時間がかかりましたか?
 5ヶ月。

入学試験 現地で入学試験や面接を受けましたか
 なし

居住許可の取得 どのような方法で取得しましたか
 入国前に日本で
 申請時に提出した書類や、申請から取得までのおおよその日数を教えてください。
 入学許可書、パスポート、預金残高証明書等、移民局ホームページのとおり。2ヶ月

保険 どのような保険に入っていましたか
 (日本)健康保険:退職後に任意継続(海外で医療利用時に還付制度あり)国民年金:任意加入
 (現地)火災保険:家主に求められたもの、年900クローナ。旅行保険:スウェーデン国外における学会参加時、国内の医療制度で保障されないため現地保険会社にて加入した。年400

学校生活: 日本の学校(大学)の授業と比べて異なる点やスウェーデンの特色を教えてください。
 ディスカッションの時間が多い。大変満足している。学生の主体的な参加が求められる。

授業の準備はどのようにしましたか。予習・復習にどの程度時間をかけましたか。

また日本で身につけた語学力で十分でしたか

予習時間は授業内容によった。1コマの予習に丸1週間かかることもあれば、統計数理関連科目など、日本の学部で学んだ知識で対応できたこともあった。授業内容に関する語学力は、専攻分野での知識や経験を学生間で共有できるため、通じあうことが可能であり、語学力そのものはそれほど問題にならなかった。

英語の授業プログラム(International Program)に参加する場合でも、

スウェーデン語は授業やリサーチ、日常生活において必要でしたか

学外で調査を行う際にある程度スウェーデン語は必要であった。

授業以外に勉強する際、どのような場所を利用しましたか。学校の施設(図書館、コンピュータールーム、カフェテリアなど)は充実していましたか

自室と図書館。図書館や学生ホールに、パソコン配備のグループ学習室や自習コーナーが充実していた。また、学内ではどこでも無線LANで各自のノートパソコンが利用可能であった。

試験はどのように実施されましたか。また試験対策はどのようにしましたか

各科目で、学期末に筆記試験が行われた。また、プレゼンテーションを課されることもあった。

プレゼンテーションやレポート(エッセイ)作成に際して、大学による語学サポートなどはありましたか。またスウェーデン独特の書き方やフォームはありましたか

留学生向けの語学サポートはなかった。(スウェーデン人学生向けの英語論文サポートはあったが、留学生は一定の英語力があることが入学資格の前提で対象外とのことであった。

学校全体やクラスにおける留学生や日本人の割合、また年齢層はいかがでしたか

クラス35名中、33名(94%)が留学生、日本人は自分のみで1名(3%)。EU内諸国、旧東欧諸国、アフリカ、アジア諸国より集まっていた。30歳前後の医療専門職経験者が多かった。

クラス以外の活動(クラブ、サークルなど)に参加しましたか

大学院生の交流会、学制組合主催のパーティーなどがあった。

現地の学生とどのように交流を深めましたか。大変だった点はありませんでしたか

学内の図書館やスポーツジムで話をした。

日本からの留学生とどのように接していましたか

他に日本人留学生を見かけなかった。

他国の留学生とどのように接していましたか。また、指導教官のやり取りで大変だった点はありませんでしたか。

お互いに部屋や寮で食事会など行った。指導教官とのやりとりでは、教官が多忙で日程調整がやや大変だった。日本で得た情報と異なっていた点はありませんでしたか。

特になし。

住居:留学期間中の住まいをどのように探し、どこに住みましたか。

学生アパート。現地の公的住宅会社(Bostaden)を通じて。

トラブルはありましたか?その場合、どのように対処しましたか。

特になし。

気候:気候の違い(気温や日照時間)に対して心がけた点を教えてください。

睡眠時間を取るよう心がけた。

現地の食事情:普段はどのように食事をしましたか。食事や食材で苦労したことはありますか。

また日本の食材は手に入りましたか。

主に自炊。手頃な価格で外食できるところが限られていた。現地の寿司屋で日本の食材を入手できた。

留学費用、送金・管理方法など:学費や諸経費はいくらでしたか。

学生組合費年600クローナ。現地銀行口座からのインターネット振込が手数料無料でよかった。

学費以外の生活費:(家賃、食費、光熱費など)はどのくらいでしたか。

個人の生活実態で大きく変わると思います。東京近郊在住時と比較して、住居費:0.6倍、食料品:2倍、外食費:4倍、光熱費:4倍、教養・娯楽費:0.5倍

お金をどのように管理していましたか。日本から送金をしましたか。

支払いはなるべくクレジットカードで行い、日本の口座から引き落とすようにした。

家賃、光熱費などでは現金が必要なため、国際キャッシュカードを使って現地通貨で引き出すか、一時帰国時に郵便局から国際送金した。

医療:現地で受診したことはありますか。大学内で医療サービスを受けることはできますか。

地区の保健センターに電話して相談し、症状により予約して外来受診するか、自宅で様子を見るか、であった。

相談先は事前に知っていましたか。学校の内外で問題があったとき、誰に相談しましたか。

また家探しに対する支援はありましたか。

受入先の学科の事務員および博士課程院生の相談担当者が決まっていた。特に支援を仰ぐことはなかった。

治安:現地の情報をどのように集めましたか。注意した点はありますか。

日本国大使館のホームページ、および在留届提出時に渡される資料。現地新聞を見て、事件の起きた公園などには一人で行かないよう気をつけた。身近では特に犯罪は聞かなかった。

通信関連:パソコンや携帯電話、インターネットを現地でどのように利用しましたか。

また、日本からパソコンを持参しましたか。

自室ではADSLでインターネットに接続した。携帯電話は特に利用せず、公衆電話で済ませたが、プリペイド式のものの方が廉価で販売されていた。パソコンは日本より持参した。現地では日本語フォントに対応するものの入手は困難と思われる。

帰国後の進路:現在の所属を教えてください。

国立看護大学校

あなたの留学経験は、現在の仕事や学業にどのように活かされていますか

概念枠組みの基盤になっているほか、学生との関わり方にも活かされている。

後輩へのアドバイス:留学生生活を振り返って、「日本にいた間にしておけば良かった」と思うことはありますか。

帰国後の就職の目途が立っていると、就職活動に割られることなく学業に打ち込めるのではないかと思います。

これから留学を考えている方々へアドバイスをお願いします

何事にも自主的に、主体的に取り組むことから、学びが深まると思います。

JISS所報原稿募集

JISS所報では、北欧・スウェーデンの歴史・政治・経済・社会制度などを研究しておられる方、公的機関や福祉・環境・教育などの社会活動機関、企業活動等での交流を通じて北欧・スウェーデンに興味をお持ちの方、あるいはJISSやJISS所報にご意見をお持ちの方々からのご投稿を広く募集しております。

応募方法は下記の通りですので、ふるってご投稿下さい。所報の編集方針に従って逐次掲載してゆきます。

1 応募資格

特にありません。ただし氏名・所属・連絡先は明記下さい。匿名の投稿は受け付けません。

2 内容と字数

北欧・スウェーデンに関するものであれば内容は自由ですが、800字(程度)、1,600字(程度)、3,200字(程度)のいずれかの文長をお願いします。

(まだ文になっておらず、テーマ、アイデアの段階であっても、投稿ご希望であればお気軽にJISS所報編集部にご相談下さい)

3 掲載の可否と掲載時期

掲載の可否、掲載時期の判断はJISS内の所報編集部で行います。

送られた原稿は返却しませんのでご了承下さい。

4 謝礼

ご投稿への謝礼は無料ということをお願いいたします。

5 原稿の送付先

原稿は、「JISS事務局 所報編集部」宛て、Eメール、郵便、またはファックスにてお送り下さい。